



香港株式市場フラッシュ

全人代で強調された「三人っ子」政策と恒安国際集団

リサーチ部 笹木和弘

Tel: 03-3666-6980

E-mail: kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp

フィリップ証券株式会社

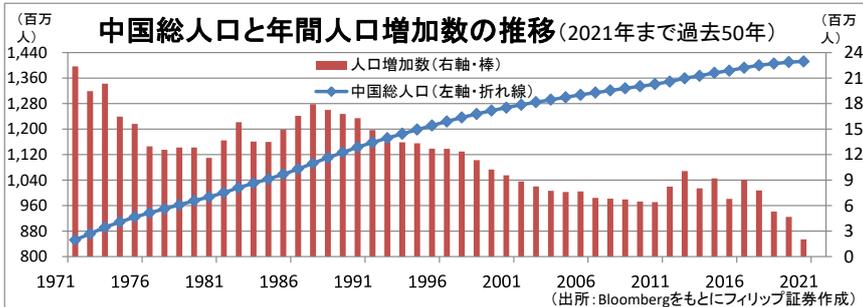
2022年3月9日号(3月9日作成)

“全人代で強調された「三人っ子」関連政策の充実“

3/5に中国の第13期全国人民代表大会(全人代)が開催された。その第5回会議上で李克強首相が行った「政府活動報告」において教育関連として、「三人っ子」関連政策を充実させ、3歳未満の乳幼児の保育費用を個人所得税特別付加控除に組み入れ、子どものいる世帯の養育負担を軽減するとされた。

中国の2021年の出生数は1,062万人と5年連続で減少。死亡者数が1,014万人に上り、近い将来の総人口の減少が視野に入ってきた。1人の女性が生涯に産む子どもの数を示す「合計特殊出生率」も20年に1.3とみられており、日本(20年に1.34)を下回っている。中国政府は16年、すべての夫婦に2人目の出産を認め、21年には3人目を容認したものの出生数の減少に歯止めがかかっていない。

また、全人口に占める65歳以上の比率は21年末に14.2%と国際基準で同14%超とされる「高齢社会」に入った。同7%超の「高齢化社会」になってからの期間が21年と、日本(同期間が25年)を上回る速度で高齢化が進展している。中国政府にとって出生数増加のための育児支援に対する政策は、優先度合が高いと想定される。



“ベビー用紙おむつ「安児楽」の恒安国際集団は高配当利回り“

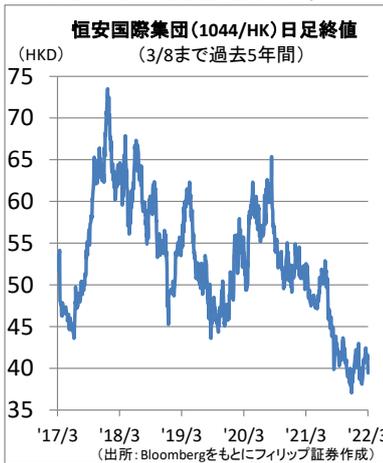
香港市場上場銘柄の中でも、中国でベビー用の紙おむつのほか生理用ナプキンやスキンケアなど家庭向け衛生用品の生産と販売を営む**恒安国際集団**【**1044/HK**】は高配当利回り銘柄として知られる。2021年の1株当たり年間予想配当は2.00元。3/8終値での予想年配当利回りは6.28%に上る。前年比では0.50元の減配だが、2020年は2012年比で約8割増の2.50元まで増配継続だった。

同社の2021年中間期の製品別セグメントで紙おむつの売上構成比は6.2%にとどまり、ティッシュペーパー(同47%)、衛生用ナプキン(同30%)と比べると主力製品とは言えないものの、ベビー用紙おむつの「安児楽」は中国では大手スーパーでよく目にする有名ブランドだ。また、中国は日本以上の速度で高齢化が進むことから成人用紙おむつ「安而康」も伸びが期待される。足元の業績は、高吸水性樹脂など石油化学原料のコスト増や市場での競争激化から粗利率の低下に伴い減益であるものの、配当性向の引上げで配当面での魅力は維持されていると言えそうだ。

恒安国際集団の2021年中間(1-6月)決算概要

	2021年1-6月 (単位:百万元)	前年同期比 増減率
売上高	9,973	▲8.7%
粗利率	39.4%	▲4.7ポイント
営業利益	2,540	▲20.2%
純利益	1,860	▲17.7%
中間配当	1株当たり1.00元	▲16.7%
配当性向	83.6%	+20.4ポイント
3/8終値での予想配当利回り	6.28%	
製品セグメント別売上高		
ティッシュペーパー	4,696	▲12.2%
衛生用ナプキン	3,029	▲6.0%
使い捨てオムツ	619	▲14.2%
その他	1,627	▲0.4%
製品セグメント別粗利率		
ティッシュペーパー	29.2%	▲5.8ポイント
衛生用ナプキン	70.0%	▲0.4ポイント
使い捨てオムツ	36.2%	▲2.4ポイント
その他	13.2%	▲11.0ポイント

(出所: 恒安国際集団の決算資料をもとにフィリップ証券作成)



ハンセン指数またはハンセンテック指数構成銘柄(全87銘柄)における終値の2021年末来騰落率

基準日: 20220308

順位	年初来騰落率・上位10銘柄 (%)	前回順位
1	中国海外発展 [チャイナ・オーバーシーズ・ランド&インベスト]	32.2 1
2	中国海洋石油 [CNOOC]	26.8 4
3	中国石油天然気 [ペトロチャイナ]	24.5 9
4	SenseTime Group Inc (商湯集団)	13.3 3
5	Budweiser Brewing Co APAC Lt	12.7 18
6	華潤置地 [チャイナ・リソース・ランド]	12.5 7
7	中国中信 [シテック]	11.9 12
8	中国移動 [チャイナ・モバイル]	9.3 11
9	龍湖集団 [ロンフォー・グループHldg]	7.9 6
10	長江基建集団 [チョンコン・インフラストラクチャーHDS]	5.6 52

順位	年初来騰落率・下位10銘柄 (%)	前回順位
87	ピリビリ	-52.2 86
86	吉利汽車控股 [ジーリー・オートモービル・HDS]	-47.4 85
85	小鵬汽車	-47.1 80
84	Ming Yuan Cloud Group Holdin (明源雲)	-42.3 63
83	舜宇光学科技(集団) [サニー・オプティカル・テクノロジー]	-40.0 83
82	葉明生物技術 [ウーシー・バイオロジクス・ケイマン]	-39.6 87
81	瑞声科技 [AACテクノロジー・ホールディングス]	-37.1 81
80	Meituan (美团)	-35.4 82
79	比亞迪電子(国際) [BYDエレクトロニクス]	-34.9 79
78	阿里健康信息技術 [アリババヘルス・インフォメーション・テクノロジー]	-32.2 74

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

【2022年3月の中国主要経済指標】

- 3月1日(火)
 - ・2月製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回50.1、結果50.2
 - ・2月非製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回51.1、結果51.6
 - ・2月財新製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回49.1、結果50.4
 - 3月3日(木)
 - ・2月財新サービス部門購買担当者景気指数(PMI): 前回51.4、結果50.2
 - 3月7日(月)
 - ・2月外貨準備高: 前回3.221兆USD、結果3.213兆USD
 - ・2月貿易収支: 前回970億USD、結果1.032億USD
 - 3月9日(水)
 - ・2月消費者物価指数(CPI) <前年同月比>: 前回+0.9%、結果+0.9%
 - ・2月生産者物価指数(PPI) <前年同月比>: 前回+9.1%、結果+8.8%
 - 3月9日(水)~15日(火)
 - ・2月資金調達総額: 前回6.17兆元
 - ・2月新規人民元建て融資: 前回3.98兆元
 - ・2月マネーサプライM2<前年同月比>: 前回+9.2%
 - 3月15日(火)
 - ・1-2月小売売上高<前年同月比>: 前回+12.5%
 - ・1-2月鉱工業生産<前年同月比>: 前回+9.6%
 - ・1-2月固定資産投資<前年同期比>: 前回+4.9%
 - ・1-2月不動産投資<前年同期比>: 前回+4.4%
 - 3月21日(月)
 - ・1年ローン・プライムレート: 前回3.70%
 - ・5年ローン・プライムレート: 前回4.60%
 - ・1月新築住宅価格<前月比>: 前回▲0.04%
 - 3月27日(日)
 - ・1-2月工業利益<前年同期比>: 前回+4.2%
- (出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)



【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平 14.1.25」に基づく告知事項>

- ・本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。